

分野連携企画報告書

行事（企画）名

日本JSME・韓国KSMEジョイントシンポジウム

行事URL

1.開催日・会場 2024年4月24日(水) Hidden Bay Hotel, Yeosu, Korea

3.企画内容

日本機械学会（JSME）BE部門では韓国機械学会（KSME）BE部門との連携を発展させるために、2013年にMOUを取り交わし、日韓ジョイントシンポジウムを開催してきた。2018年から部門間交流も兼ねてSHD部門と本シンポジウムを共催している。主な内容は、シンポジウムを毎年どちらかの国で開催するものである。本年は、BE部門とSHD部門の分野連携企画として、日本JSME・韓国KSMEジョイントシンポジウムをKSME年次大会期間中の特別企画として開催した。

4.連携の成果

BE部門から2名、SHD部門から1名の若手研究者が派遣され、KSMEからの3名の研究者を加えた合計6名の招待講演によるジョイントシンポジウムが開催され、活発なディスカッションが行われた。また、シンポジウム終了後には、記念撮影および次回の開催に向けた打ち合わせも行い、議事録を共有しているため、今後の国際連携も円滑に進むことが期待される。さらに、その後の懇親会などにおいても情報交換の機会があり、KSMEおよびJSMEの若手研究者による有意義な国際交流が行われた。特に、今回の交流をきっかけにして、日韓の若手研究者による国際共同研究が検討されている点は重要な連携の成果である。

2.企画部門

バイオエンジニアリング（BE）部門

スポーツ工学・ヒューマンダイナミクス（SHD）部門

5.今後の課題（苦労した点、課題点、他の企画へのアドバイス等）

（1）本シンポジウムに派遣する講演者の選定にあたり、JSME側ではBE部門の渉外委員会メンバーとSHD部門担当者がWGを形成し、将来的な人的ネットワークの形成を図るため、部門で活躍する若手研究者を選定した。

（2）今回は韓国の地方開催で、交通アクセスのよくない都市での開催であったため、現地空港から会場までの移動では、KSME側の担当者との連携が重要であった。シンポジウムの成功のためには、日韓の連絡窓口による密なコミュニケーションが重要であると感じた。

（3）本企画は部門間交流および国際交流を目的としてシンポジウム終了後に記念撮影が行われた。招待講演者や参加者のみなさんもまじえて記念撮影を行うことで大変和やかな雰囲気でもシンポジウムを終えることができ、その後の個人的な交流にもつながった。

（4）本企画を次年度以降に向けて円滑に継続させていくために、シンポジウム終了後には、次回開催に向けた打ち合わせを行った。打ち合わせには、JSMEからの講演者3名と、KSMEからはBE部門 副部門長を含む6名が参加し、次回シンポジウムの開催場所、予定している時期、招待する講演者数、日韓双方の連絡担当者などが確認され、後日E-mailにて議事録も共有している。また、次回開催においても若手研究者を中心とした交流を推奨する方針であることが確認された。以上のように、次回開催の概要を互いに確認し、JSME・KSMEそれぞれの連絡窓口を明確にすることが、継続的な国際連携を進める上で重要と思われる。

（5）本企画では、招待講演者のトピックを限定せず幅広い分野での交流を図った。一方で、統一のトピックを設定することでシナジーが生まれる利点もあるため、この点については今後の課題であると感じた。